

〈教育報告〉

健診受診行動から健康づくりのあり方を考える —墨田区のアンケート調査から—

A study on the behavior towards health examination in respect to health promotion in Sumida ward

合同臨地訓練第3チーム

康 文 江, 谷 本 佐理名, 齊 藤 和 夫, 井 口 清 也
上 野 秀 紀, 矢 野 浅 美, 今 川 洋 子, 森 永 綾 子
布 施 寿美江, 柳 沢 経 子, 土 山 典 子, 小 野 志 保
岩 崎 祐 子

I はじめに

墨田区は、東京23区のなかでも下町の雰囲気を残した地域であり、なかでも製造業、特に中小企業が多いという特徴を持っている。現在、墨田区の標準化死亡率は、23区内でも上位に位置しており、この背景には、墨田区民の年齢構造や生活、就労状況などが大きく関わっていると思われる。今後、墨田区がよりよい保健衛生等サービスを展開していくためには、地域実態の把握が必要である。現在、行政側は様々な保健サービスを住民に提供しており、そのサービスを直接受けにくる者をとおして住民を把握している場合が多く、住民全体を十分に把握しきれていない。

そこで、保健サービスの主要事業でもある「健康診査」への住民の受診行動から住民の社会的背景や健康に関する意識についての実態把握を目的として調査を実施した。

II 方 法

1 調査地区の概要

墨田区の人口は平成8年1月1日現在220,292人(世帯数97,025世帯、1世帯平均2.3人)で昭和35年の315,378人をピークに減少傾向にある。人口構成においては65歳以上の高齢者の割合が15.9%と、昭和35年の3.3%から急激に増加しており、また、全国(14.6%)や東京都(13.0%)の高齢者割合を上回っている。

産業面では、商工業を中心に23,275事業所(平成3年事業所統計調査)があり、なかでも製造業の占める割合は33.9%で東京都(14.4%)に比べ2倍以上である。このようなことから墨田区は工業の町であるといえる。また、事業所規模については、事業所数の約93%が従業員19人以下の小規模な事業所で占められ、さらに従事者4人以下の事業所が全

体の6割を占めている。

2 調査対象

墨田区住民(以下「区民」とする)のうち、平成8年度の誕生日健診対象者(40, 45, 50, 55歳)と60, 65歳の健康診査の対象者を調査対象とした。

3 調査方法

平成9年1月1日現在の住民基本台帳から地区、性別、年齢を指標として層化2段無作為抽出を行い、郵送調査法により実施した。(調査期間 平成9年9月8日~10月29日)

調査票郵送数は、2,880通、うち回収数2,371通であった。そのうち分析には回答が有効であった1,873通を用いた。

この対象を、「誕生日健診・60歳以上の健康診査受診者(以下区健診受診者)」、「職場健診受診者」、「受療中」、「健診非受診者」の4つに分類して分析を行った。

4 調査内容

「誕生日健診・60歳以上の健康診査」等の受診状況と「性別」、「年齢」、「家族構成」、「職業」、「事業所規模」といった属性及び、健康の意識等16項目について、本人に回答してもらった。

III 結果及び考察

1 全体

アンケートの結果によると、年齢が高くなるほど、区健診受診者の割合が増加し、一方、職場健診受診者の割合は減少した。また、年齢と共に、受療中の者が増加し、健診非受診者は、年齢と共に徐々に減少した(表)。

女性は、区健診受診者の割合が高く、男性は職場健診の割合が高い傾向にあった。健診非受診者の割合については、男女の差はみられなかった。

2 就業状況(表参照)

墨田区に多い自営業者の健診受診状況については、区健

指導教官：林 正幸・兵井伸行・綿引信義・曾根智史

表 職業と年齢別健診受診状況 (%)

年齢	区健診受診者	職場健診受診者	受療中	健診非受診者	計
自営業					
40	26 (38. 2)	9 (13. 2)	2 (2. 9)	31 (45. 6)	68 (100)
45	22 (28. 6)	8 (10. 4)	2 (2. 6)	45 (58. 4)	77 (100)
50	33 (37. 5)	14 (15. 9)	3 (3. 4)	38 (43. 2)	88 (100)
55	42 (34. 1)	23 (18. 7)	7 (5. 7)	51 (41. 5)	123 (100)
60	71 (47. 7)	15 (10. 1)	14 (9. 4)	49 (32. 9)	149 (100)
65	95 (66. 9)	17 (12. 0)	9 (6. 3)	21 (14. 8)	142 (100)
計	289 (44. 7)	86 (13. 3)	37 (5. 7)	235 (36. 3)	647 (100)
被雇用者					
40	21 (12. 5)	101 (60. 1)	3 (1. 8)	43 (25. 6)	168 (100)
45	15 (10. 8)	86 (61. 9)	2 (1. 4)	36 (25. 9)	139 (100)
50	20 (16. 4)	68 (55. 7)	4 (3. 3)	30 (24. 6)	122 (100)
55	15 (17. 0)	53 (60. 2)	4 (4. 5)	16 (18. 2)	88 (100)
60	43 (47. 8)	29 (32. 2)	3 (3. 3)	15 (16. 7)	90 (100)
65	32 (47. 1)	17 (25. 0)	7 (10. 3)	12 (17. 6)	68 (100)
計	146 (21. 6)	354 (52. 4)	23 (3. 4)	152 (22. 5)	675 (100)

診受診者 (44.7%)、健診非受診者 (36.3%) であった。また、この自営業者は、60歳以上になると区健診受診の割合が増加し、健診非受診者の割合が減少した。これは区健診について、40～55歳は日時や場所が決められており、一方、60、65歳は、受診できる期間に余裕があり近隣の医院を会場としている。このように60、65歳の健診の方が受けやすい体制であることが、区健診受診者が60歳になると増加する一因になっていると考えられた。

一方、被雇用者は健診非受診者の割合が低く、また、事業所規模が大きくなるほど職場健診受診者の割合が増加した。これは職場での健康管理体制の整備状況によるものと考えられた。

したがって、墨田区民の健診受診は、女性及び、小規模事業所就労者や自営業者は、区健診を受診する者が多く、被雇用者や大規模事業所就労者は、職場健診を受診する者が多い傾向にあった。

3 健診受診・非受診理由

墨田区に多い小規模事業所の就労者や自営業者は、半数が健診非受診である。この非受診者の健診非受診の理由は、「時間がなかった」「時間が合わなかった」といった理由が多かった。これらの者は、職場健診のような勤務時間内に健診を受けられる体制と比べ、仕事のために健診へ行くための都合をつけられないといったことによって受診していない可能性が考えられた。一方、健診受診者の受診理由は「通知があった」が最も多く、「大切であるから」「定期的に受けているから」といった健康意識の高さをうかがわせるものも上位を占めていたが、「無料だから」や「時間がなかったから」、「会場が近かったから」といった理由も少なくなかった。つまり、健診受診は、自分の健康チェックをしよ

うとする健康意識の高さだけでなく、「通知」といったアプローチをはじめとする利便性や経済性、時期などさまざまな要因が関与していることが明らかになった。

「健康のための心がけ」について、広義での健康への興味・関心の意識をはかる一指標として分析したところ、全体的には心がけがある人の方が健診受診者が多い傾向にあった。しかし、心がけていないと回答しているにもかかわらず健診は受診している者や、全く逆に、心がけていても健診は非受診である者も少なくなかった。この心がけがなく、健診受診した者の受診理由は、時間の関係や会場が近い、無料であるといった理由が多かった。

以上のことから、健診受診行動は、個々の意識だけではなく個人の生活背景等により受診行動により影響を受けており、単に受診行動の有無で健康意識の高さを測りきれものではないことが推察された。

IV ま と め

今回の調査で、墨田区の健診受診行動は区民の年齢、職業といった属性に大きな影響を受けていると推察された。また、わずかなきっかけで区健診を受診するという行動をとることが考えられた。現在、年代により就労状況が異なることが、健診を受ける機関に対して影響を与えており、将来的にこの就労状況の変化が区健診受診に影響を与えることを否定できない。

地域の健康を守るためには、自分の健康は自分で守るという考え方に立った上で、職業、年齢、性別といった属性に応じたきめ細かい施策が行政に求められていると考えられた。